



画：ブライアン・ウィリアムズ／「湖北花明け」 曲面水彩画

第63期 中間報告書

平成28年7月1日 ▶ 平成28年12月31日

トップメッセージ

- 当中間期の概況と今後の取り組み

工事紹介

- 栗東市防災拠点施設建設工事
- 国道365号補助道路修繕工事

TOPICS

- 新聞スタンドラック贈呈
- 三東工業社信楽本店竣工



TOP MESSAGE

トップメッセージ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、当社第63期第2四半期累計期間(平成28年7月1日から平成28年12月31日まで)の事業活動が終了いたしましたので、当中間期の業績、経営施策および今後の取り組みについてご報告させていただきます。

みなさまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう心よりお願い申しあげます。

当中間期の業績は?

当中間期におけるわが国経済は、個人消費や企業収益の改善に足踏みが見られたものの、全体としては、緩やかな回復傾向が続いております。

建設業界におきましては、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は4か月連続のプラス、新設住宅着工戸数も3か月ぶりに前年を大きく上回りました。一方、公共工事におきましては、請負金額が3か月ぶりの大幅マイナスとなりました。従いまして、引き続き緩やかな回復基調にあるものの、弱含みの横ばい状態から回復に向けての動きを探る展開となっております。

このような経済状況下、当社は現場力の強化、経費削減及びリスク管理の強化を重点的に取り組み、競争力を高める努力をしてまいりました。

この結果、当中間期の業績は下記「第2四半期累計期間財務ハイライト」のとおりとなりました。

当中間期の経営施策は?

当中間期におきましては、今後、増加が見込まれる老朽化した社会インフラ整備工事において、舗装工事や修繕工事等でシナジー効果が期待できるものと判断し、株式会社古澤建設の発行済株式の80%に相当する240株を買い受け、平成28年9月末に子会社化いたしました。

また、「TOPICS」で紹介しておりますように、「林野庁 平成27・28年度CLT^{※1}を活用した建築物の実証事業」の採択を受け、当社信楽本店を建設いたしました。この建物は、平成28年4月1日に施行された、CLTを用いた建築物の一般的な設計法等に関する建築基準法による日本初の、構造材が全てCLTの建築物となります。この建物の建設に関しては、当社ホームページの「SANTOニュース」で紹介しておりますように、信楽本店CLT構造見学会を開催し、びわ湖環境ビジネスメッセでご紹介するとともに、地元テレビ局にも取り上げていただきました。今後も、CLTの幅広い普及に向けて積極的に展開してまいります。

さらに、右ページで紹介しておりますように、建築部門では「栗東市防災拠点施設建設工事」を受注し、土木部門では「国道365号補助道路修繕工事」を完成し、「滋賀県優良工事表彰(土木部門)」を受賞することができました。当社は今後も、地域の安全・安心なまちづくりに貢献できるよう努力してまいります。

今後の取り組みは?

建設業界におきましては、公共工事の減少など需要停滞の影響はあるものの、引き続き建設需要は堅調に推移するものと予測されます。しかしながら、若年層の建設業界離れや少子化の影響もあり、建設従事者の人手不足は深刻で、引き続き厳しい経営環境は継続するものと思われます。

そこで、当社では「TOPICS」で紹介しておりますように、小さな地域貢献から若年層に建設業界に関心を持っていただく活動を行うとともに、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を重視し、より働きやすい環境を整備することを推進してまいります。この活動の一環として、社長の私自身が「イクボス宣言」をすることで、滋賀県イクボス宣言企業に登録されております。

また、今般注目されているi-Construction^{※2}を積極的に推進し、若者や女性にとって魅力ある建設現場を目指してまいります。

このように、将来に向けて人材を確保するとともに、働きやすい職場環境の構築を行うことで、創業100周年に向けて持続可能な会社経営を行っていく所存であります。

なお、利益配分につきましては、業績に応じた配分を基本とし、株主のみなさまへの安定的な利益還元と経営体質の強化を重要な経営方針の一つとして位置づけ、今後の事業展開などを勘案して決定することとしております。当期末の配当金につきましては、1株につき4円の配当を予想し、業績予想の必達に全社一丸となって邁進してまいります。

平成29年3月

株式会社 三東工業社
代表取締役社長 奥田 克実

※1 CLTとは、Cross Laminated Timberの略称で、ひき材の繊維方向が層ごとに直交するように重ねて接着したパネルを示す用語。

※2 i-Constructionとは

建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指す新しい取り組みであり、次の3つの取り組みを行うこと。

■ ICT技術の全面的な活用 ■ 規格の標準化 ■ 施工時期の平準化

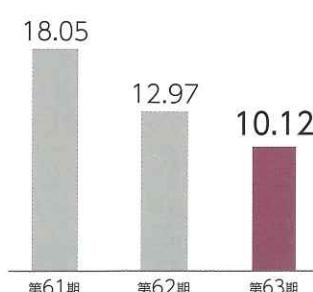
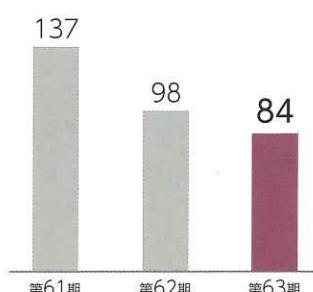
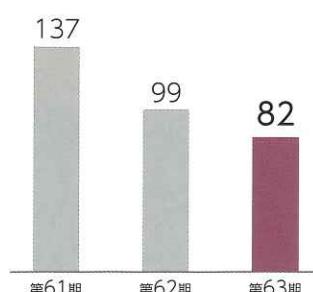
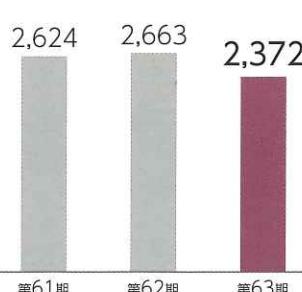
第2四半期累計期間財務ハイライト

売上高	2,372百万円
(単位:百万円)	

営業利益	82百万円
(単位:百万円)	

経常利益	84百万円
(単位:百万円)	

1株当たり四半期純利益	10.12円
(単位:円)	




**建築部門
施工中工事**

栗東市防災拠点施設建設工事

■発注者：栗東市 ■工期：平成28年12月22日～平成30年2月28日 ■場所：滋賀県栗東市安養寺地先 ■施工者：三東・たち建設工事共同企業体
■概要：地上3階 鉄骨造 建延面積 1,272m²



完成イメージ図

監理技術者 井上 義昭
(建築工事部 工事長)現場代理人 橋高 正
(建築工事部 工事主任)

滋賀県栗東市では平成25年の台風18号の襲来以来その被害を教訓として災害に強いまちづくりを目指し「栗東市防災拠点施設」が計画され、当社JVがその施工をさせていただいております。この建物は現在の栗東市庁舎に隣接して建設するもので、内部には物資の備蓄倉庫なども備えられ、災害発生時に災害対策本部としての機能を有し、救助・救援活動の中核となる施設として一部既存庁舎の改築も含み、整備されることとなっております。

滋賀県発注の平成27年3月に竣工した「危機管理センター」の施工につきましても当社がJVにて施工させていただき、今回はそれに引き続いての受注となりました。

人々を災害から守るための施設を当社が施工させていただけることに責任と誇りを持って、今後も安全に、最善を尽くして工事を進めてまいります。

**土木部門
完成工事**

国道365号補助道路修繕工事

■発注者：滋賀県 ■工期：平成27年8月11日～平成27年11月20日 ■場所：滋賀県長浜市高月町井口地先
■概要：施工延長 358.6m・施工面積 2,690m²

この工事は、傷んだ道路の修繕を目的とした舗装工事でした。

道路上の作業であったため、工事量が非常に多い工事にもかかわらず毎日夕方までに交通規制を解除する必要があり、規制時間内は大変忙しい工事となりました。このような厳しい施工条件の中、各管理内容にミスが無いよう計画を入念に行い、環境面、仕事量の面で性能の高い最新の施工機械を使用するなどさまざまな工夫で日進量を高め、一日の施工量を確保しました。

現場代理人 石原 和充
(土木工事部舗装グループ)

この修繕工事により、車両が快適(平坦性結果0.9mm)に通行できるようになっただけでなく周辺への振動と騒音が軽減され、排水勾配の改善により歩行者への水はねがなくなりました。また、舗装寿命の延長が見込めるため、今後の修繕工事回数を減少させるという点など、工事目的を達成することができたと思います。

私自身については、滋賀県の縦長部分の端から端までの通勤となり、毎日片道100km以上の道のりを通勤したことはとても大変でした。しかし、協力業者の能力の高さ、役所関係者、地元近隣の区長さんなど多くの良い方に恵まれ、コミュニケーションも良好な中、無事に完工いたしました。さらにはこの工事が、滋賀県優良工事表彰において土木部門の「土木交通部長賞」を受賞するという喜ばしい結果となり、関係者のみなさまに感謝するとともに、今まで携わった工事の中でも、特に印象深い工事となりました。

TOPICS

■新聞スタンドラックを贈呈いたしました

当社の本社所在地である滋賀県栗東市の「栗東市立栗東中学校」に新聞スタンドラックを贈呈し、去る平成29年1月10日、中学校を訪問いたしました。スタンドラックは生徒のみなさんが必ず通る玄関ロビーに設置され、ロビーには地元の方から寄付されたというピアノも置かれており、栗東中学校の奥西邦彦校長先生は「このスペースを文化的な場所としたいと考えている」と話され、当社の寄贈をとても喜んでくださいました。

この寄贈は小さなことながら、次代を担う中学生のみなさんに少しでもお役に立ちたいという思いがあります。今後は毎週新聞ニュースが掲げられますが、生徒のみなさんが新聞を通して広く世界に目を向けてくださることを願っております。



(左)栗東市立栗東中学校 校長 奥西 邦彦先生
(右)当社 取締役管理本部長 矢森 貞行

■当社信楽本店竣工

前回第62期年次報告書等でお伝えしておりました、当社信楽本店が無事竣工いたしました。「信楽の風土に溶け込む木のオフィス」をコンセプトとし、古くから日本六古窯の一つとして栄えてきたやきものまち信楽の地に、新しい建材「CLT」を使い、アーチ型の連続壁を用いることによる力強さ、温かさ、柔らかさを備え持つ、陶器を焼く穴窯のような柔らかい空間が完成いたしました。信楽は特に冬季の寒さが厳しい土地ですが、屋内にはペレットストーブを設置し、燃える炎、木のぬくもりで心身ともに温かさを感じられる建物に仕上がってあります。



また、使用したCLTは、すべて県産材である「びわ湖材*」を使用しております。敷地内には防災備蓄倉庫を備え、太陽光発電システムも取り入れておらず、それによって創った電気をリチウムイオン蓄電池に蓄えることができます。さらに、EV・PHV用充電施設を設置し、LED照明を採用することで環境面にも配慮、防災面、環境面ともに優れた建物となりました。

この建物は滋賀県では最初のCLT建築物であり、日本国内でもまだ数少ないCLT建築事例となるため、本店竣工後の平成29年3月3日には、関係者を招いて「信楽本店CLT実証事業完成報告会」を開催いたしました。

当社は滋賀県におけるCLTの先駆者として、また母なる湖、美しい琵琶湖をはぐくむ山や森を育てる発信者として、これからも全力で取り組んでまいります。

*びわ湖材とは、滋賀県内で伐採された原木を県内で製材加工した木材のこと。

■株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定期株主総会	毎年9月
基準日	定期株主総会 毎年6月30日 期末配当 每年6月30日 中間配当を行う場合 12月31日 その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
インターネットホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場金融商品取引所	東京証券取引所

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

当社ホームページのご紹介



当社のホームページは、ご覧いただきましたでしょうか？
株主・投資家のみなさまに対して、企業情報や財務情報についての積極的な情報公開を随時行っております。また、みなさまからのご意見もお待ちしております。

<http://www.santo.co.jp>

■表紙絵画に寄せて

湖北菅浦の上、奥びわ湖パークウェイの入り口辺りは、竹生島展望の絶好の地。四季を通して好んでよく描きに行く。春の桜も良し、にわか雪にけむる島も美しい。夏は湖が青く広がり、秋の紅葉も鮮やか。村も風情があり、宿のかも鍋も楽しみ。私が訪れたとき、雨上がり朝の光の中で満開の桜の向こうに浮かび上がる島が印象的であった。



by Brian Williams

ブライアン・ウィリアムズ オフィシャルサイト <http://www.brianwilliamsart.com>

